小学校

光村ポケット 国語

子どもと楽しむ！ 国語の学習びらき

新年度が始まる４月。学級には、まだ緊張している様子の児童も、多いかもしれません。

そんな児童も楽しく取り組め、ともに学ぶ学級づくりにもつながる教材が、教科書の巻頭にあります。

青山由紀先生による、授業づくりの Tips とともに、ご紹介します。





連載第１回　国語における探究的な学び

LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、いち早くお届けします。

光村図書

教授用資料　本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

子どもと楽しむ！国語の学習びらき

「友達と話すって、楽しい！」「国語って、おもしろいな。」――そんな声が聞こえる学習びらきになることを願って、２年生以上の教科書の巻頭には、「言葉の準備運動」「詩を楽しもう」「楽しく書こう」の３教材を位置づけています。

話し合い、ともに学ぶ関係をつくる

言葉の準備運動

「言葉の準備運動」は、話しやすい題材で、子どもたちの緊張をほぐす単元です。活動を通して、友達の新たな一面を知り、ともに学習する関係の土台をつくることができます。



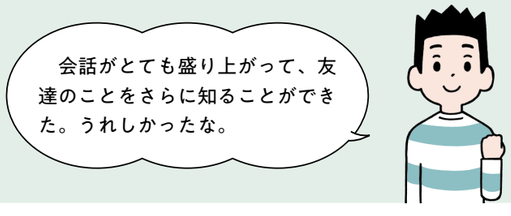
「ひみつの言葉を引き出そう」（５年 18 ページ）



「力を合わせてばらばらに」（４年上 14 ページ）

授業デザインの Tips

「言葉の準備運動」は、子どもたちの力を見取るのに役立てることもできます。例えば、５年「ひみつの言葉を引き出そう」では、秘密の言葉を引き出すための会話や質問をします。そのやり取りから、グループで行う協働的な学びの素地や、語彙の量を見取ることができます。（青山由紀先生）

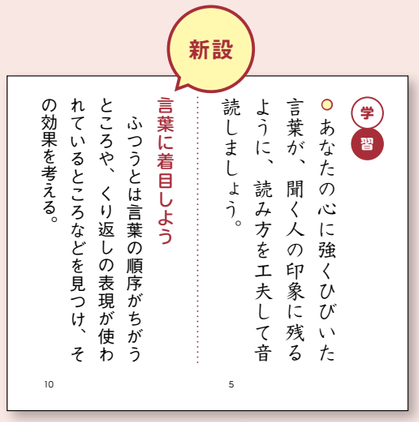




音読や解釈の共有をして、詩を味わう

詩を楽しもう

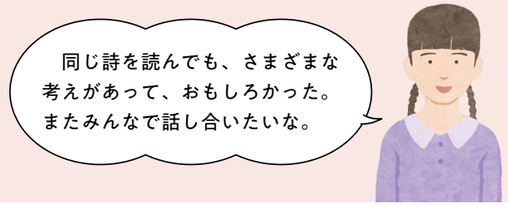
「詩を楽しもう」は、詩を声に出して読み、言葉や表現のよさに出会う単元です。音読を通して、詩のイメージを表現する楽しさを感じることもできます。



「準備」（６年 21 ページ）

授業デザインの Tips

詩の解釈には正解がないので、自分と違う意見を聞くことで、みんなで学ぶよさに気づくことができます。詩の表現を取り上げて、「○○は何を表しているのでしょう。」などと声かけをし、子どもの好奇心を喚起することも大切です。どんな意見も受け止め合い、安心して発言できるクラスにしていきましょう。（青山由紀先生）

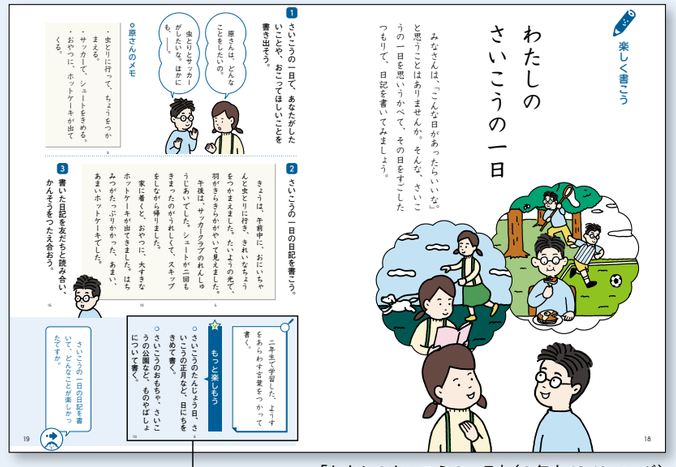


自由に、のびのびと書く

楽しく書こう

新設

「楽しく書こう」では、子どもが負担を感じず、意欲的に取り組むことができる題材を扱っています。
書いたものを友達と読み合うことで、互いのことを知ったり、互いの文章のよさに気づいたりして、文章を読み合うことの楽しさにも気づくことができます。



「わたしのさいこうの一日」（３年上 18-19 ページ）

虫眼鏡マーク

学習活動のポイントです。「楽しく書こう」では、前学年の指導事項（知識及び技能）をいかして書くためのポイントを示しています。

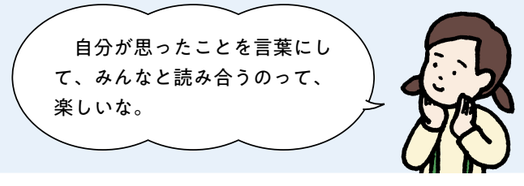
もっと楽しもう

活動のバリエーションや、継続的な書く活動につなげるためのアイデアです。

※この二つのコーナーは、「言葉の準備運動」にもあります。

授業デザインの Tips

子どもたちが盛り上がる仕掛けを入れることも考えられます。例えば、３年上「わたしのさいこうの一日」では、「『今日は動物が空から降ってきた。』のような、嘘日記を書いてみましょう。人が悲しむ嘘以外なら何でも大丈夫ですよ。」と言うと、子どもたちは楽しそうに、自由に書き始めます。（青山由紀先生）



学習びらきで大切にしていること　　青山由紀（前筑波大学附属小学校教諭）

学習びらきでは、「国語って楽しい。」と思ってもらえることを大切にしています。国語の授業は毎日あるので、「この先生といっしょに学んでいく今年１年間の国語って、楽しそうだな。」と感じてほしいと思っています。

また、巻頭の３教材では、子どもたち全員がどんな形であれ「できた。」と思えることを目ざしています。最初からみんながができるわけではありませんが、すぐにはできなくても、次のチャンスがあることを示すなどして、「学習を通して、できるようになっていくのだな。」と安心感を与えてあげることは、すごく大事なことだと思います。

そのためには、子ども一人一人の実態を把握することも大切です。「この子は『話す・聞く』が苦手なのかな。」「視写が苦手かな。」などと、個々人の状況を見ていきます。何かにつまずいている子どもに対しては、その原因や、個に応じた支援などを考える必要があります。その見取りのために、巻頭の３教材をぜひ活用してみてください。



連載第１回

国語における探究的な学び

これからの子どもたちに求められる力を育む学び方として、探究学習への関心が高まっています。国語科においては、どのように取り入れていくとよいのでしょうか。

第１回は、**森和久先生**（椙山女学園大学）に聞きました。

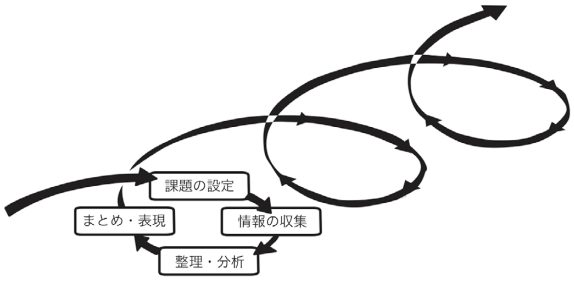
Q.1 国語科の学びは、探究学習とどのように結び付いているのでしょうか。

探究学習は、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルで進んでいきます。この全ての過程を行ううえで、国語の力は不可欠です。

例えば、小学校国語科の学習指導要領にある、以下のような力がなければ、探究活動は成立しないといってよいでしょう。

- 「読むこと」の「事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ」る力。
- 「書くこと」の「目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，（中略）伝えたいことを明確に」する力。また、「引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように」書き表す力。
- 「話すこと・聞くこと」の「資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫する」力。

このように国語科は、児童が生涯にわたって探究し続けるために、基盤となる力を育成しています。そのため、国語の学びを教科の中で完結させることなく、探究学習にいかしていく意識が重要だと思います。



文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編」より引用

Q.2 探究学習をするには、どのようなことから始めるとよいでしょうか。

探究学習は、子どもが自ら課題や方法を決めることが望ましくはありますが、小学校段階においては、初めから全てを子どもに委ねるのではなく、課題や方法を教師が設定することから始めたほうが、学習方法の習熟が期待できます。

探究学習は、「総合的な学習の時間」で行われることが多いと思いますが、国語科の時間内で学習内容に関連した探究学習を行うことは、国語科で学んだことを広げていくよい機会になります。

その方法としては、①国語科で身につけた力をいかして探究する、②国語科の単元そのものを探究学習にする、という二つの方向性が考えられます。その際、教科書の「問いをもとう」「つなぐ」「いかそう」「この本、読もう」などのコーナーに着目すると、各単元の学習を探究につなげるヒントが見つかります。

５年生の教科書から、①の例を示すと、「大造じいさんとガン」の「この本、読もう」で取り上げられている紹介図書をいかして、「動物が登場する物語における表現を研究する」といった探究課題を設定することもできるでしょう。また、「自然環境を守るために」の「ふりかえろう」の「つなぐ」にある「資料のある文章を読んだり、書いたりするときには、何に気をつけたいですか。」という問いをもとに、資料を活用する方法を探究する学習を行うことも考えられます。

②の例としては、「『子ども未来科』で何をする」の「問いをもとう」にある「どんな提案のしかたをすると、説得力が増すと思いますか。」といった問いは、そのまま探究のテーマになると同時に、探究にいきる国語の力を身につけることにもつながります。

このように、国語科の学びの発展を探究学習とすることも、また国語科の単元全体を探究学習とすることも考えられ、教師の授業デザインのしどころだといえます。

光村図書

教授用資料
発行日 2025年4月1日
発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111（代表）
イラスト 坂本伊久子／加納徳博／山内庸資／芦野公平

光村図書ウェブサイト
光村図書